

吉備路古墳めぐり

—古代吉備国探訪—

平成1年11月5日

備陽史探訪の会 古墳研究部会

吉備の古墳めぐり

——SWIHで考えてみよう!!

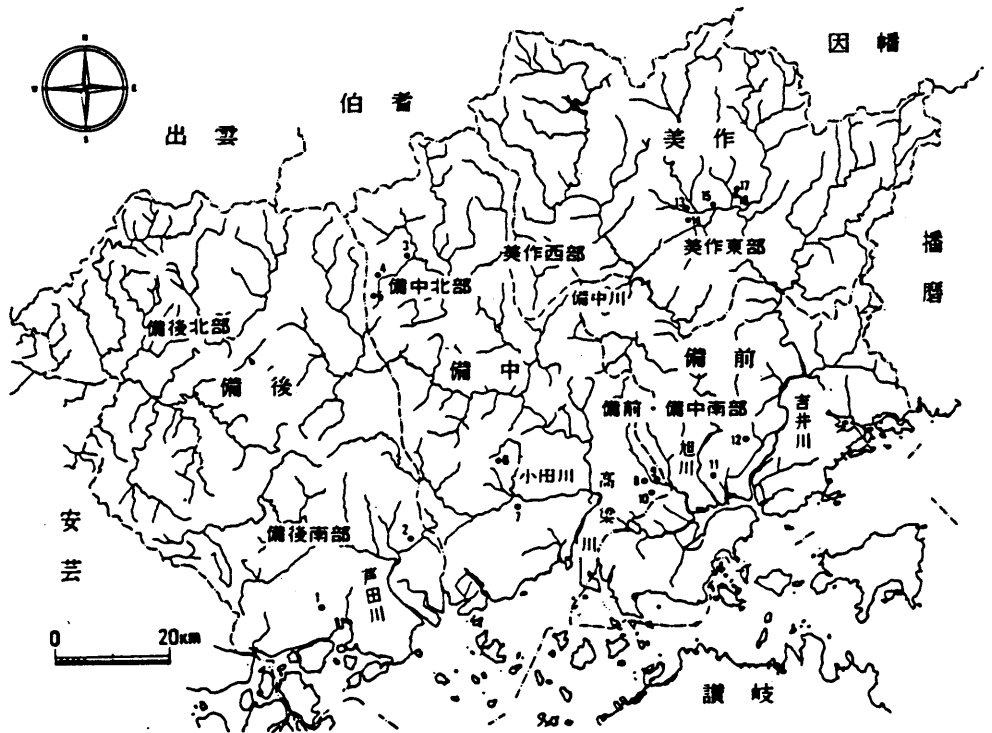
今回、「吉備」の古墳を中心にした見学会に参加の皆さん、こんにちは!!

「吉備」と言えば、備中国分寺跡の五重塔をはじめ、造山・作山のよつ的巨大前方後円墳など、古代において畿内の勢力と同じくらいのカを持ち、繁栄をした「古代吉備王国」のイメージが浮かんでくることでしょう。

そこで、今日は、「古代吉備王国」と呼ばれるものを、実際に見ながら、よく考えてみようと思います。

そして、考えるポイントとして、「SWIH」を提案しようと思います。

「SWIH」とは何でしょうか？ それは、①いつ「When?」②どこで



第1図 「吉備」の範囲 (図中の番号は関係ありません)

① ^{ホウエア} "Where?", ② ^{フー} だれが "Who?", ③ ^{ホワット} なにを "What?", ④ ^{ホワイ} なぜ "Why?",
 ⑤ どのように "How?", の英語の頭文字をまとめたもので、物事をまとめる時
 にも役に立つ考え方なのです。

では、まず、①のいつ "When?" です。

今日、見学するのは古墳が中心です。古墳は有力者(豪族)の墓(じょうぞく)のことで、
 大きな墓を、それと1人の人のために作る事ができた時代、多くの人々をそのために
 使う事ができた時代を「古墳時代」と呼んでいるのです。そして、その前の
 時代を「弥生時代」と呼んでいます。

これからの説明では、次のように年代を考えてください。

弥生時代	終わりごろ	3世紀ごろ	黒宮遺跡・楯築遺跡など
古墳時代	はじめ(前期)	4世紀ごろ	ギリギリ山古墳など
	なかごろ(中期)	5世紀ごろ	作山古墳・道山古墳など
	終わりごろ(後期)	6世紀ごろ	箭田大塚古墳・江崎古墳など

実は、「古代吉備王国」の時代と、この頃なのです。

次に、②のどこで "Where?" です。

第1図を見てください。本来、「吉備」と呼ばれる地域は、現在の岡山県
 と広島県の東半部を占めたものなのです。(即ち、備前・備中・備後・美作)

このうち今日は、特に 備中南部をめぐります。文字どおり「吉備」の中心です。

3番目は、だれが“Who?”です。

言うまでもなく、古墳には誰が葬られているかを書いたものはありません。ですから、造山古墳という、300m以上の大きなお墓でも、一体の誰の墓かはわからないのです。

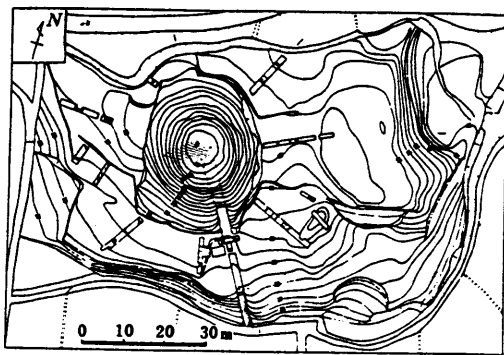
しかし、「古事記」とな「日本書紀」と言う、奈良時代に作られた歴史書の中には、「吉備」の豪族の名前がいくつか出てきます。

前津屋(さきつや)や田狹(たさ)という人がその代表です。

彼らになぜ、歴史書に名前を残したのか？ それは、彼らが、当時の畿内の勢力に対して、反乱を企てたり、起こしたから。つまり、「吉備」は古代の有力豪族の中でも、唯一、反乱伝承を持つ——それだけ力の強い——豪族だったのです。

4番目のなにを“What?”については、それぞれの古墳の説明にします。

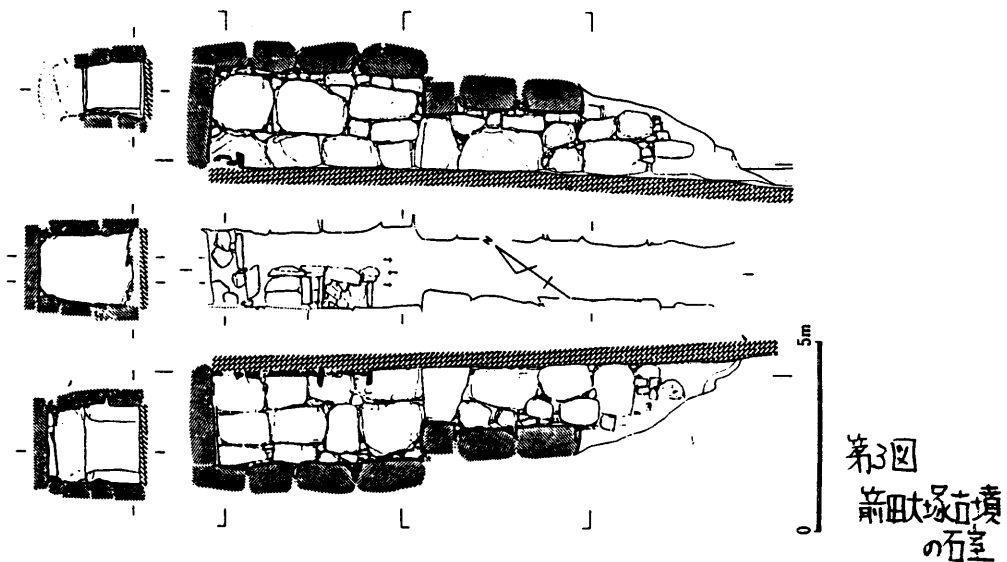
1) 箭田大塚古墳 (やたおお塚 / 吉備郡真備町)



第2図 箭田大塚古墳

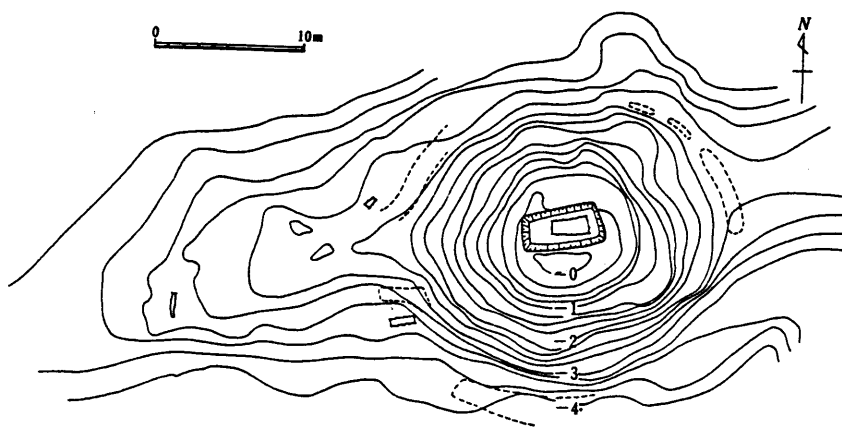
- ・古墳時代後期
- ・直径約50mの円墳
(東南部に張り出し部)
- ・墳丘は2段で、埴輪あり
- ・両袖式の横穴式石室
(全長19.1m, 巾3.0m, 高3.8m)

- ・石室内に組合せ石棺、木棺
- ・副葬品——須恵器、柄頭、馬具、玉など



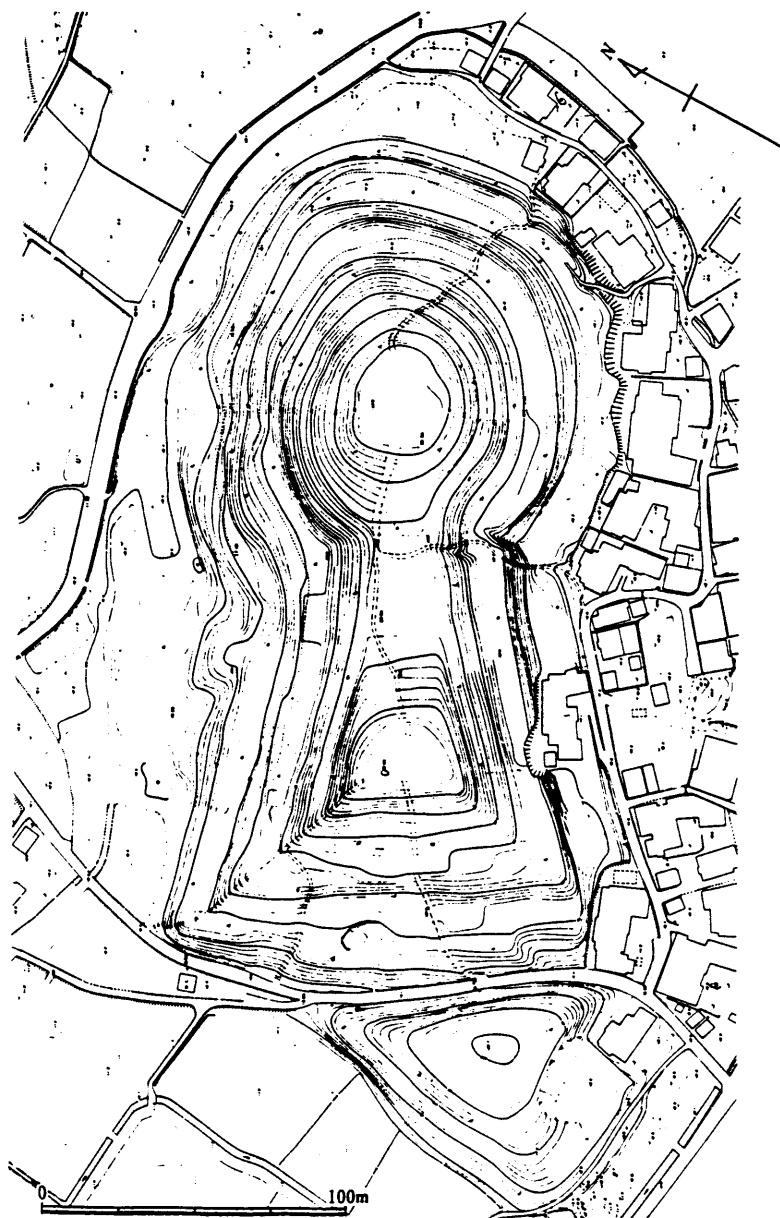
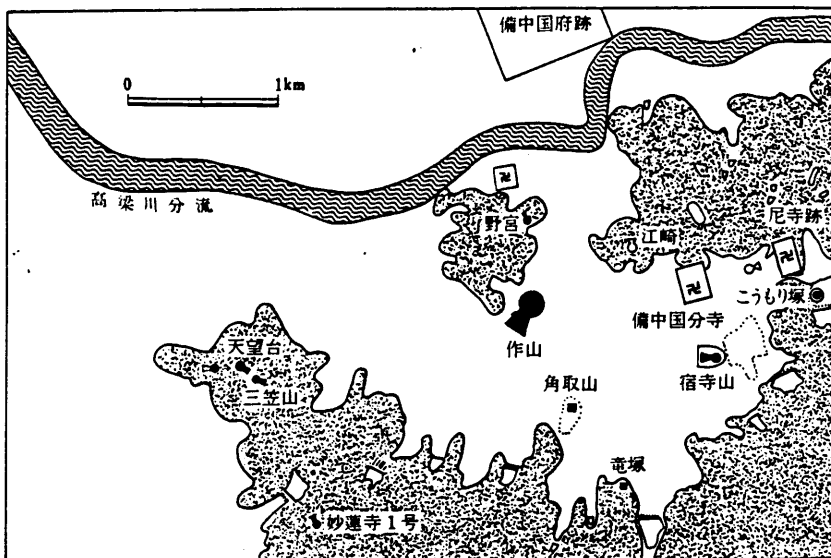
㉒) 宮山遺跡 (みややま / 総社市三輪)

- ・ 弥生時代 終わりごろ
- ・ 全長約40mの前方後円形(!)の墳墓群
- ・ 中央部に小竪穴式石室 (中に、刀・鉄鍬・玉・鏡)
- ・ 周囲に30余基の埋葬あり
- ・ 特殊壺・特殊器台 (宮山型) が出土。



第4図 宮山遺跡(墳墓群)

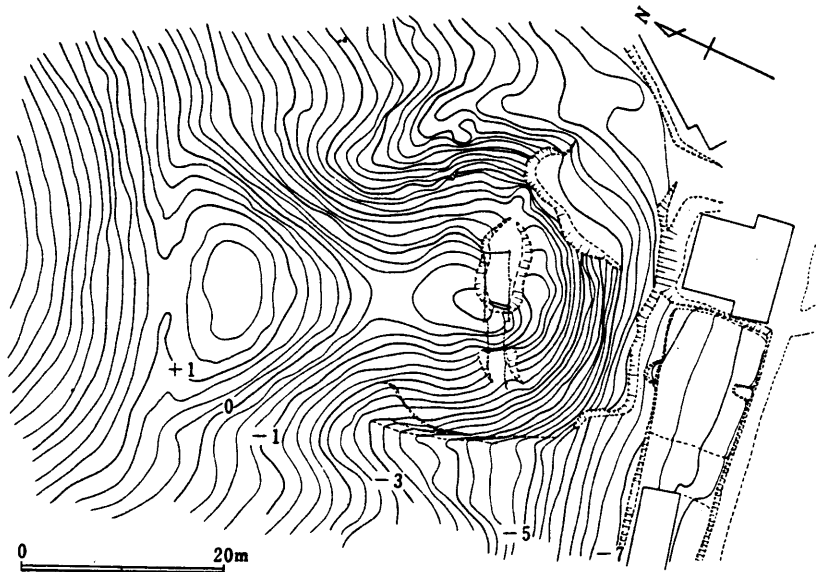
第5図
周囲の古墳
(1)



第6図
作山古墳

iii) 作山古墳 (つくりやま / 総社市三須)

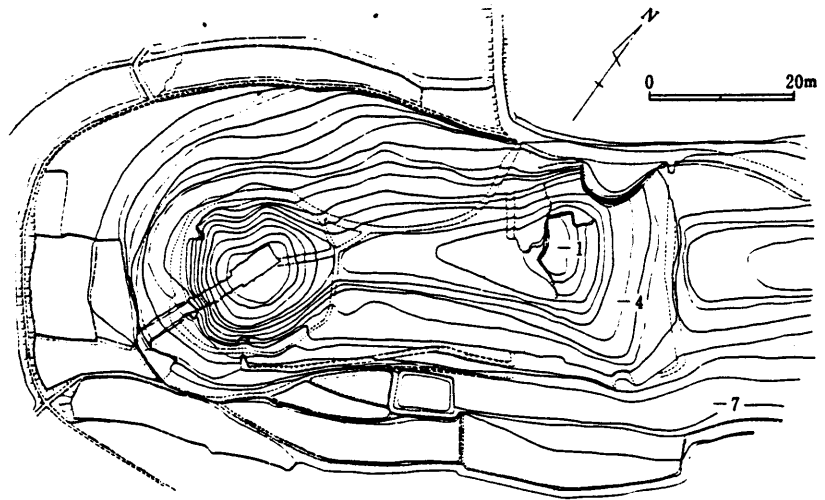
- ・古墳時代中期
- ・全長286mの前方後円墳、3段築成で埴輪がめぐる
- ・内部施設などは不明



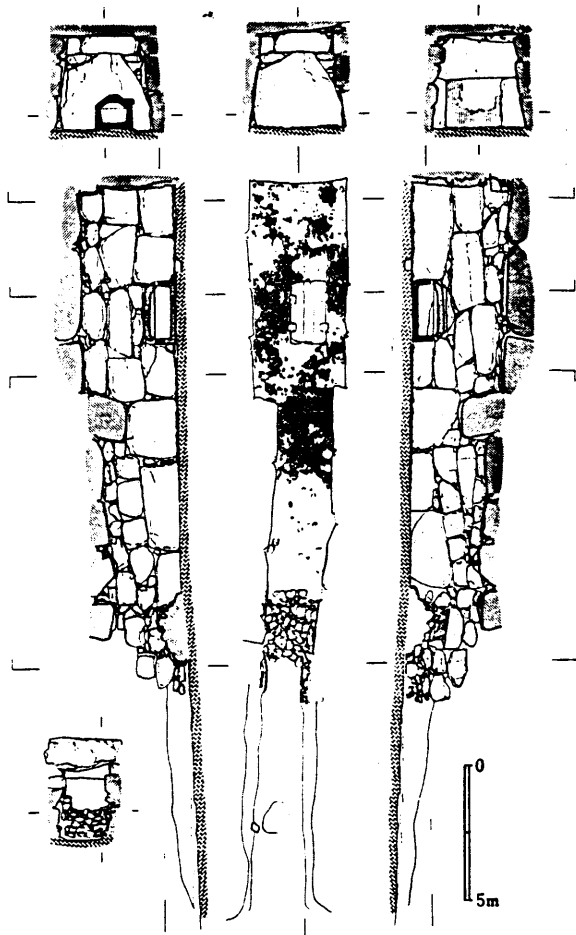
第7図 江崎古墳

iv) 江崎古墳 (えさき / 総社市上林)

- ・古墳時代後期
- ・全長45mの前方後円墳
- ・両耳式の横穴式石室 (全長13.8m, 巾2.6m)
- ・くりぬき式の冢形石棺
- ・副葬品 — 須恵器, 鏡, 武器, 馬具, 玉類



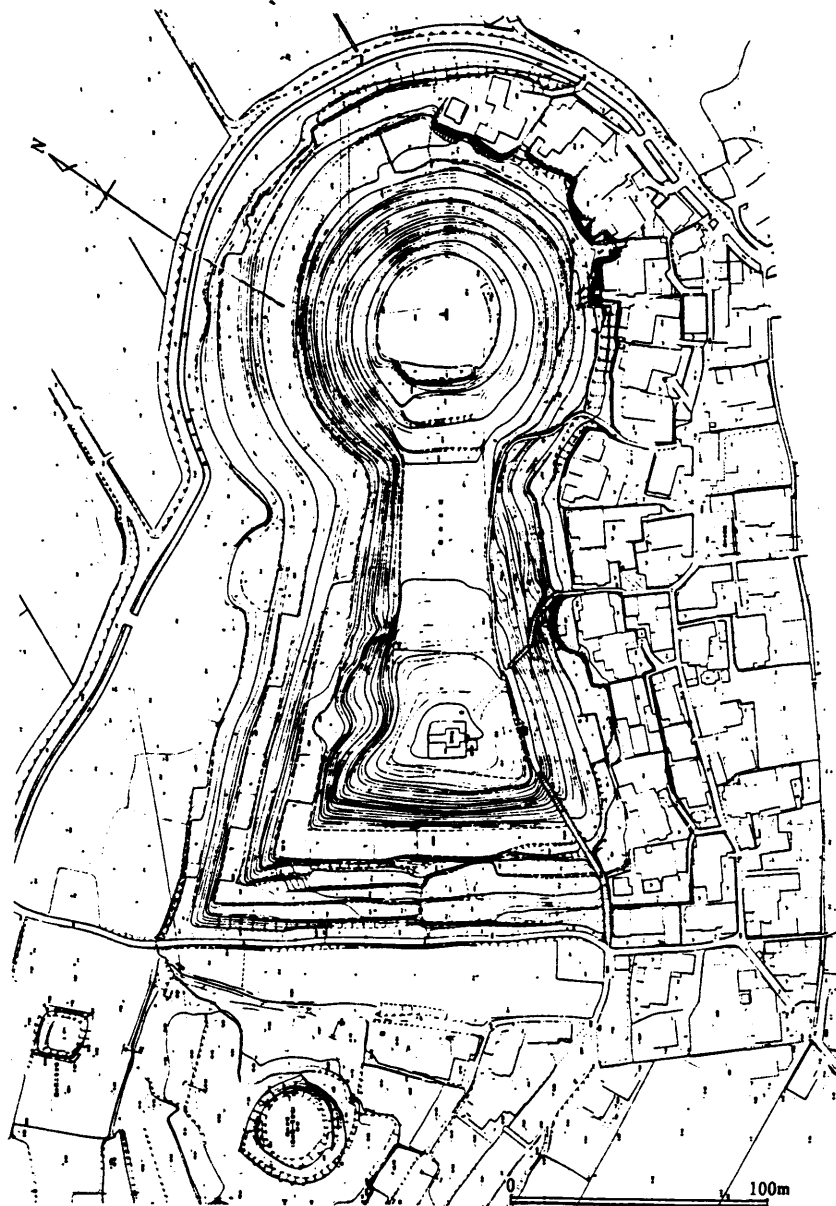
第8図 とうとり塚古墳



第9図 とうとり塚古墳 石室

㊦) とうとり塚古墳(総社市上林)

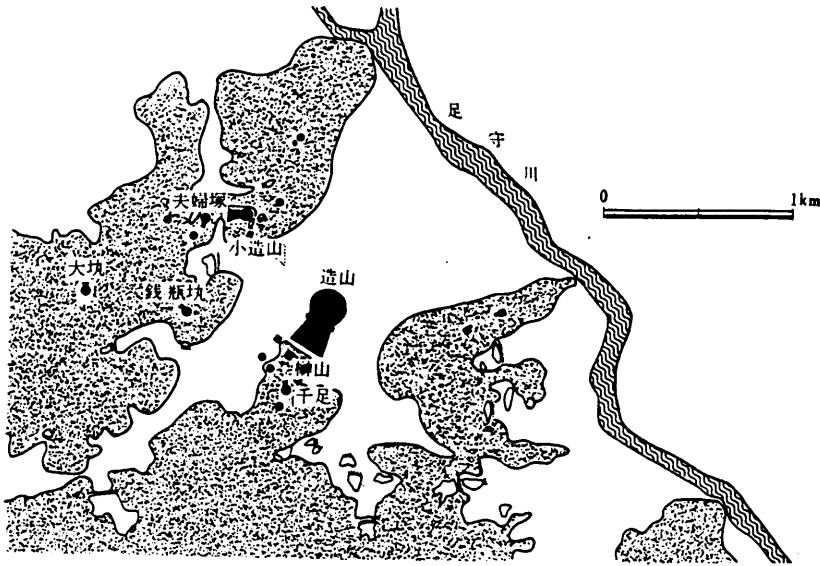
- ・古墳時代後期
- ・全長約100mの前方後円墳
- ・2段築成
- ・両側式横穴式石室
(全長19.5m, 巾3.6m, 高さ3.6m)
- ・くりぬき式家形石棺と
陶棺・木棺
- ・副葬品——須恵器・土師器・
大刀・柄頭・馬具・玉類など



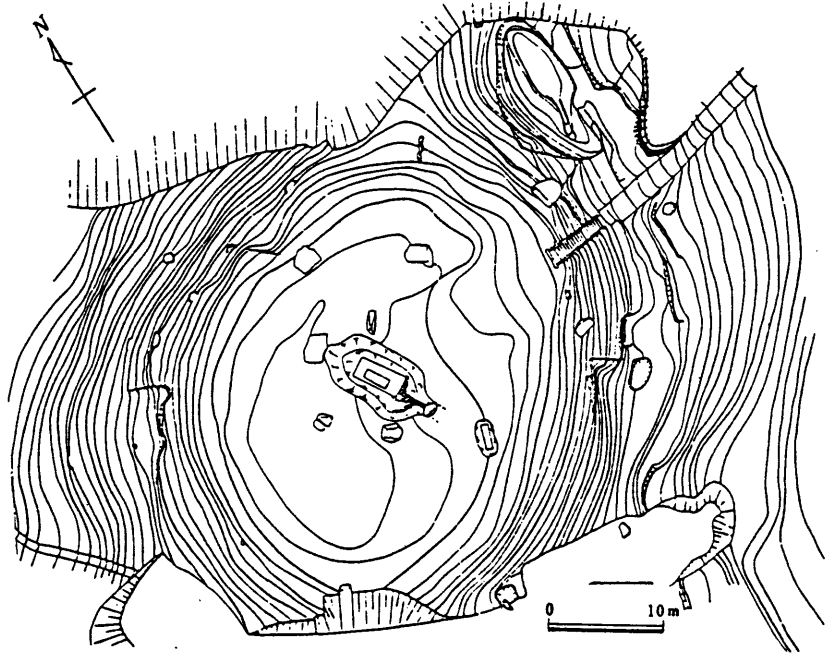
第10図 造山古墳

10) 造山古墳 (つくりやま/岡山市新庄)

- ・古墳時代中期
- ・全長約350mの前方後円墳 3段築成で埴輪がめぐる
- ・内部施設などは不明



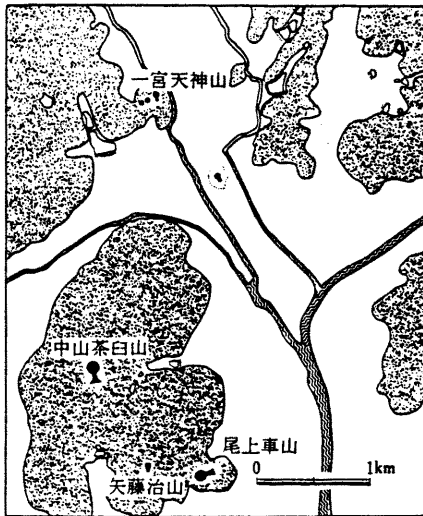
第11図
周囲の古墳(2)



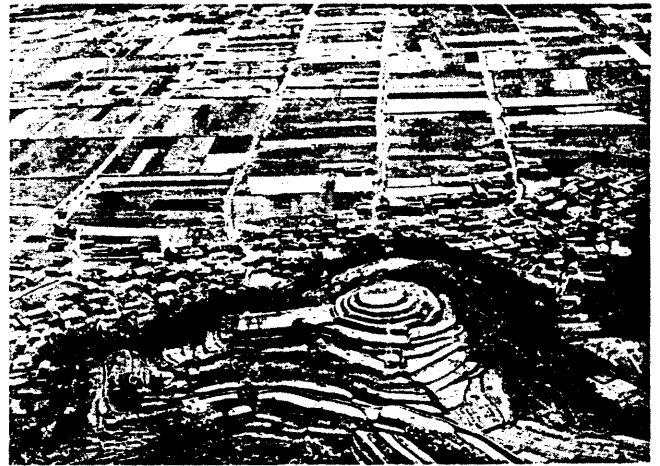
第12図 楯築遺跡

11) 楯築遺跡 (たてつき/倉敷市矢部)

- ・弥生時代の終わりごろ
- ・径約43mの円丘 ⊕ 南北に突出部
- ・中央に木なく(木棺), 特殊器台あり
- ・副葬品 — 鉄剣, 玉類



第13図 周圀の古墳(3)



第14図 尾上ギリギリ山古墳

ⅡⅢ) 尾上ギリギリ山古墳 (おのうえ/岡山市東花尻)

- ・古墳時代前期
- ・全長13.4mの前方後円墳
- ・3段築成、葺石あり
- ・内部施設などは不明

さて、⑤のなぜ“Why?”です。

どうして、「吉備」の地でこれほどの勢力が生じたのでしょうか？

次の理由が考えられます。

i) まとまりのある平野のため、地域的に一つになりやすかった。

ii) 鉄資源・鉄製品の技術があった。

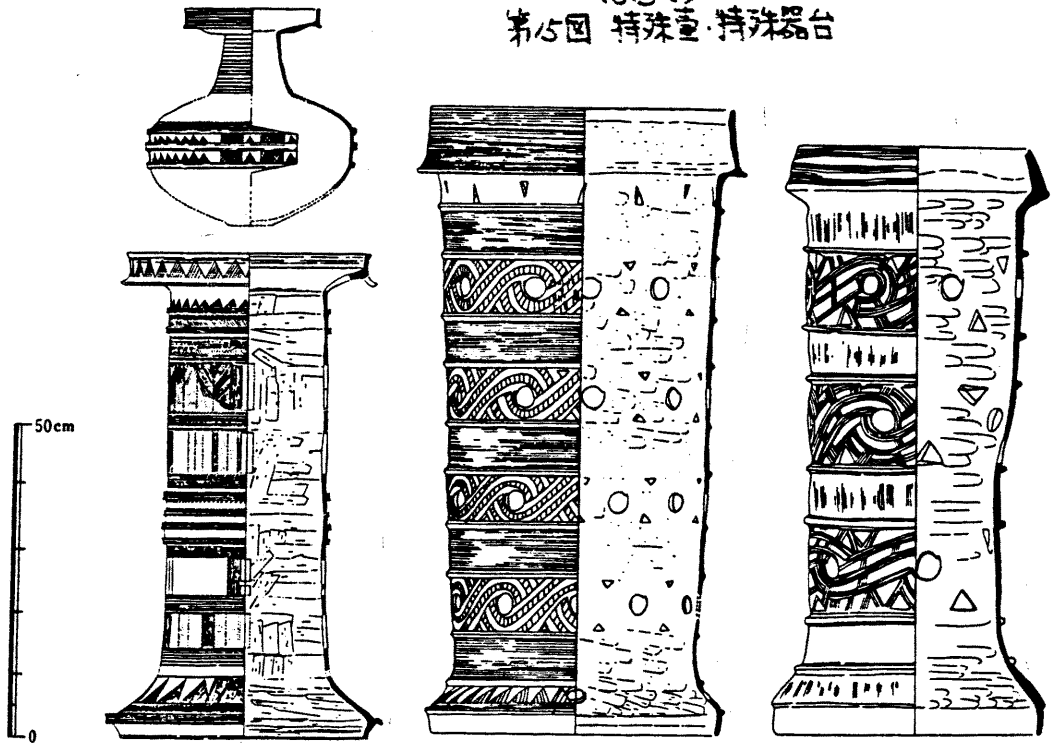
iii) 塩(生活の必需品)生産の中心であった。

iv) 総社平野の農業生産力が高かった。

最後のどのように“How?”です。

—— これは一日楽しむこと。その中で皆さんで見つけてみて下さい!!

<3.3>
第5回 特殊重・特殊器台



< ヌ モ >

*気付いたこと,ふしぎに思ったこと,書いておこう??

吉備路



- ~~~~ 吉備路自然歩道
- ~~~~ 吉備路自転車道
- レンタサイクル

鬼ノ城
鬼城山 ▲
古代山城の遺跡で
石垣や土塁が約3kmに
わたって連なる

旧足守藩の
家老宅で、
武家屋敷の
遺構が完全な形で
残されている。

伏見稲荷、豊川稲荷
とならぶ日本三大稲荷の
ひとつ。神仏混淆で
最上稲荷教の
総本山

戦国時代の典型的な
平城。羽柴秀吉の
水攻めで有名

備中高梁へ
豪溪

宝福寺
画聖雪舟ゆかりの寺。
広大な境内に
七堂伽藍を備えた禅寺

備中国の総社
古代様式を今に伝える
三島式庭園が
美しい

高松城水攻
築堤跡

浅尾陣屋跡

備中国府跡

真金一里塚

総社

市役所

昔公園

やよいひろば

江崎古墳

吉備路
郷土館

造山古墳

狸爪塔跡

宮山墳墓群

作山古墳

備中国分寺

備中国分尼寺跡

山毛村郷土館

吉備考古館

角力取山古墳

聖武天皇の勅願により
創建された国分寺の
ひとつ

全長350m.後円部の
高さ24mの巨大な
前方後円墳

吉備国の総氏神

東洋一といわれる
石燈籠が見もの

